

氏名(本籍)	陳 亮 亮 (中国)
学位の種類	博士(学術)
学位記番号	博甲第6126号
学位授与年月日	平成24年3月23日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	生命環境科学研究科
学位論文題目	Regional Resource Allocative Disparity in China (中国における資源配分からみた地域間格差に関する研究)

主査	筑波大学教授	博士(農学)	茂野隆一
副査	筑波大学教授	Ph.D	徳永澄憲
副査	筑波大学准教授	博士(農学)	首藤久人
副査	筑波大学准教授	博士(農学)	松下秀介

論文の内容の要旨

著しい経済成長が続く中国においては、地域間あるいは産業間に存在する経済格差が大きな社会問題となっている。この経済成長の背景で、産業構造の変化がドラスティックに生じており、それに伴い各種生産要素、資源の地域間・産業間の利用構造にも変化が生じている。本論文は、こうした中国における地域間、産業間の経済格差の状況を生産要素の地域間、産業間の資源配分の観点からとらえることで、格差をもたらす要因を明らかにすることを目的としている。

本論文は、主に以下の2つの部分によって構成されている。

第一に、地域間の経済格差の要因分解を行った分析である。ここでは省別のデータを用いて成長会計分析を行い、各省の成長要因としての産業別資本蓄積、同技術進歩、および産業間の労働配分の効率性の役割について計量的に特定したうえで、地域間格差の検証を行うアプローチである成長収束 (growth convergence) 分析を組み合わせて、中国の地域間格差の要因を識別する分析を行った。その結果、技術進歩については低所得地域のキャッチアップの効果が十分ではなく、第二次産業における資本蓄積が地域間格差形成の大きな要因の一つとなっており、また各地域内での効率的な資源配分に関する労働の産業間移動の効果も地域間格差の縮小に十分な貢献を發揮していないことが明らかになった。

第二に、地域間、産業間における投資の格差に関する分析である。先に第二次産業での資本蓄積が地域間格差形成に寄与しているとの分析結果を得たものの、その産業内には農業部門との連関性が高い食品産業部門を抱えている。この背景のもと、食品産業の生産性の地域間格差に着目しながら、不平等度指数の一つであるタイル指数とその分解を用いて食品産業・非食品産業間の投資の地域間配分について数量的分析を行った。その結果、2000年代には地域間で食品産業の生産性の高い地域に投資が集中している状況が明らかになった。アジア経済研究所『中国多地域間産業連関表』をもとに食品産業の影響力係数を地域別に検討したところ、近年、食品産業のシェアが増大している南沿岸部、南西部などにおいては、食品産業が地域内農業に及ぼす波及効果は他の地域に比べて比較的小さいことを確認した。これらの分析結果を踏まえ、バランスのとれた地域発展のために今後取り組むべき課題として、農業部門の生産性改善やその連関効果の効率化があることを指摘した。

審査の結果の要旨

本論文は、中国における経済格差の源泉を明らかにすることを目的としている。かかる問題は現代中国が直面する焦眉の課題となっており、多くの先行研究が存在する。しかしながら、本論文が行ったような省レベルのデータをもとに産業間の資源配分のあり方を数量的に識別したうえで詳細に地域間格差の問題を論じた研究は稀少である。また投資が地域間、産業間の経済格差に及ぼす影響について、特に食品産業に分析の焦点をあてながら農業セクターへの影響を含めて論じた研究はほとんど無い。その意味で本論文の分析は、研究として十分な新規性を有していると考えられる。

本論文の分析によって、中国における地域間の経済格差の様相が明らかになるとともに、その主要な要因として資本蓄積が大きく作用していることが解明された。一方、技術進歩は低成長地域が技術のキャッチアップによって先進地域に追いつく、すなわち経済格差を縮小させる方向に作用することが可能性として考えられるが、中国の場合は先進地域が新たな技術の開発や海外からさらに新しい技術を取り入れることにより、むしろ経済格差を拡大する方向に作用することも明らかになった。このように、本論文は学術的な新規性ととも、実証的な新たな知見を提供するものであり、その意義は大きいと判断する。

平成 24 年 1 月 25 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもとに論文の審査及び最終試験を行い、本論文について著者に説明を求め、関連事項について質疑応答を行った。その結果、審査委員全員によって合格と判定された。

よって、著者は博士（学術）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。